

The Tokyo-Cambridge Gazette

In Search of Japan's Global Strategies

2010年秋から筆者の活動の中心を東京に移した。ケンブリッジの研究者との関係を維持しつつも、米中両国、東南アジア、そして欧州の研究者との関係を強化し、グローバルな視点から読者諸兄弟と共に日本の将来を考えてみたい。従ってタイトルも *Tokyo-Cambridge Gazette* に変更する。

『東京=ケンブリッジ・ガゼット：グローバル戦略編』 第182号 (2024年6月)

キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 栗原 潤

彼れを知りて己れを知れば、百戦して殆(あや)うからず。
彼れを知らずして己れを知れば、一勝一負す。
彼れを知らず己れを知らざれば、戦う毎に必ず殆(あや)うし。

Know the enemy and know yourself; In a hundred battles you will never be in peril.
When you are ignorant of the enemy but know yourself; Your chances of winning or losing are equal.
If ignorant both of your enemy and of yourself; You are certain in every battle to be in peril. (孫子) (Sunzi/Sun Tzu)

小誌は大量の資料を網羅的かつ詳細に報告するものではない—筆者が接した情報や文献を①マクロ経済、②資源・エネルギー・環境、③外交・安全保障の分野に関し整理したものである。紙面や時間の制約に加えて筆者の限られた能力という問題は有るが、小誌が少しでも役立つことを心から願っている。

今月号「目次」

1. *Tokyo-Cambridge Gazette*: グローバル戦略編第182号
2. 情報概観—①マクロ経済、②資源・エネルギー環境、③外交・安全保障
3. 編集後記

1. *Tokyo-Cambridge Gazette*: グローバル戦略編第182号

世界中で innovation の必要性が叫ばれているが、innovation はそう簡単に実現出来るものではない。

5月2日、世界的所有権機関(WIPO)が隔年報告書を公表した(World Intellectual Property Report 2024: Making Innovation Policy Work for Development)。まことに innovation は難しい。シュンペーター先生は innovation が新たな現象を社会にもたらすために様々な抵抗が生じる事を述べている。「経済分野の場合、この(新しい動きに対する)抵抗は、まず新しいものによって脅かされる集団から始められ、次に必要な協力を得ることの困難の中に現われ、最後に消費者を惹き付けることの困難の中に現われる(In matters economic this resistance manifests itself first of all in the groups threatened by the innovation, then in the difficulty in finding the necessary cooperation, finally in the difficulty in winning over consumers)。

WIPOの報告書は innovation が実現されるために3つの能力—即ち科学(science)、技術(technology)、生産(production)—が適切に組み合わせられる事が重要で、そうでなければ成果(income/GDP)は得られないと語っている(p. 4の図1参照)。この図は上記3つの能力に関する主要国のシェアを示している。米国のシェアは科学19%、技術30%、生産12%で所得が27%である。また日本はそれぞれ6%、20%、5%、7%。中国はそれぞれ14%、6%、10%、13%だ。即ち3国の特徴を列記すれば①米国は優れた科学力と小規模だが効率的な生産力で高所得を実現し、②中国は海外に依存した技術力で効率良く所得を得ている。他方、③日本は折角優れた技術力を持ちながらも成果を十分に挙げていないのだ。こう考えると、innovation を社会に浸透させ、実りある成果を得るためには科学・技術・生産の“組合せ”、即ち科学・技術・生産(現場)の間で優れた人々による適時・適切な“連携プレー”が極めて重要なのだ。換言すれば innovation を生み出す“チーム・組織・制度”が大切なのである。

これに関し最も有名な歴史的な事例の一つは Xerox 社のパソコンだ。最初にパソコンを製造したのは、1981年の IBM でもなく、1983年の Apple でもない。1973年の Xerox 製の“Alto”だ。同社は非常に優れた科学者と技術者を抱えていたが、生産現場と本社に統率力・調整力のある指導者がいなかった。そして後年スティーヴ・ジョブズが“Alto”を担当した人々を Apple に招き入れてパソコン開発を成功させる(詳細は Harvard の法科及びビジネス大学院(HLS & HBS)出身の人々が著した本を参照(*Fumbling the Future*, 1988))。これについては更に研究を深めてゆくつもりだ。

マクロン仏大統領は、フランス国民、全欧州、更には中国や南太平洋に対して発言を繰り返している。

大統領は、4月25日にソルボンヌ大学で1時間40分余りの演説(Disours de l'Europe)を行った。「感想は?」との友人の質問に、筆者は「大変面白かったが、長かった。2度聞きたいとは思わない」と答えた。優れた大学での講演であったため知的水準が非常に高い講演であった。しかし、全世界に映像が公開される事を考えれば「長過ぎる」。フランス国民—老人から子供まで—に明るい未来と団結を訴えるには長過ぎるのだ。筆者は「彼が大学教授であったなら、また聴衆が知識人だけならば素晴らしい演説だった。ポール・ヴァレリーの『精神の危機(La Crise de l'esprit)』、ヴォルテールの『カンディード(Candide, ou l'Optimisme)』、更にはハンナ・アーレントの『人間の条件(The Human Condition)』に言及し、そして、欧州版国防高等研究計画局(une DARPA européenne)の必要性も語った。長かったが知的な演説を楽しんだ」と語った。ただ、大統領自身「長い」と思ったか、演説の最後のあたりで「長過ぎた(j'ai été trop long)」と語り、聴衆から笑いを(この時ただ一度だけ)誘い出している。

5月5日、習近平主席が訪仏し、仏大統領と中東を中心に世界情勢を議論した。これに関して国際問題研究所(Ifri)のマルク・ジュリエン氏の解説が大変興味深い(「大統領の中国政策: 幻想放擲して、レアル・ポリテックへ帰帰(La politique chinoise d'Emmanuel Macron: L'abandon des illusions et le retour à la Realpolitik)」, 次の2参照)。こうした中、先月中旬、中国が勢力圏拡大を図ろうとする南太平洋に在る(仏海外領土のニューカレドニアで暴動が勃発した。この仏中間 power balance の変化は日本にとっても重要な問題だ。昨年7月26日、大統領は「ニッケルはニューカレドニアの富であり、それがフランスと欧州の主たる戦略的資源である事は忘れてはけません。しかも我々は大々的な再産業化に注力し始めている時代を迎えているのです(le nickel est une richesse pour la Nouvelle-Calédonie. C'est aussi, et je le dis ici avec force, une ressource stratégique majeure pour la France et l'Europe, à l'heure où nous avons engagé un effort massif de réindustrialisation)」と語って、この地における中国の影響圏拡大を警戒している。

地政学的変化や地球環境の変化等に呼応する形で、各国は“新たな”産業政策を策定しようとしている。

冒頭で述べた WIPO の報告書は“A New Era of Industrial Policies”と題し、温暖化対策や感染症対策、更には情報化対策として各国政府が産業政策を再編しようとしている点に触れた。その事の証左として巷間“industrial policy”という言葉が“流行言(buzzword)”となっている(p. 4図2参照)。

なかんづく人工知能(AI)に関する各国の動きが凄まじい。科学論文数としては中印両国の研究者の活躍が目覚ましい。近年重要視されている国際共同研究に目を移すと、英独両国の研究者が積極的だ(p. 5図3参照)。小紙前号で触れた Stanford Human-Centered Artificial Intelligence (HAI) 公表の資料は、AI 関連の民間部門の主要国別投資額(2023年)を示している。これに依れば、米国が672億ドルで首位。そして中国(78億ドル)、英国(38億ドル)、ドイツ(19億ドル)と続き、日本は12位の7億ドルだ。こうした中、Google 元CEOのエリック・シュミット氏は、対中競争を念頭にしてAI版「アポロ計画」を提唱している(次の2参照)。中国もハイテク分野に対し熱い視線を送り続けている。これに関し、小誌4月号で触れた Harvard の Lei Ya-wen(雷雅雯)教授は、昨年11月の本の中で次のような興味深い観察結果を述べている(*The Gilded Cage: Technology, Government, and State Capitalism in China* («鍍金の籠子: 中国的技术国家資本主義»))。即ち①政府の著しい“技術に対する執着(fetishization of technology)」、②政府は高速道路や橋梁等の目に見えるインフラ整備は得意だが、制度という“目に見えない”インフラ整備には不得意である事、③短期的な姿勢に基づき、あとさきを考えずに急場しのぎの政策を行い、しかも無計画的に政策を急変する(中国の諺で«quenching a thirst with poison»、«朝令夕改(an order in the morning and rescind it in the evening)»)。

各国が産業政策の再編に邁進する中で、海外の友人達は「ジュン、日本の対応策は?」と尋ねる。彼等は「ジュン、今の優れた最新技術は将来には陳腐な旧式技術になってしまう。日本の産業政策再編を真剣に考え直す時期が来ているのでは? また最近の円安を勘案すると、国際科学技術交流は経済的に高づくし、国力としてドル建て GDP の世界シェアは低下する。国際政治の視点からすると危険な状態だよ」と畳み掛けるように日本の課題を筆者に対して指摘する。最後には笑いつつ「日本の対世界 GDP シェアが低下すれば、国連の分担率も下がる、そうすれば国際的責任は軽減される。この点だけは“希望の光(a silver lining)”かな?」なんて皮肉を言われて、筆者はちよつと悔しい思いをしている(p. 5の図4参照)。

小紙前号で触れた日本経済団体連合会の資料の表題(「日本産業の再飛躍」)が示す如く、我々は“復活の日”を迎えている。そして約10年前、香港で友人から教えてもらった言葉を思い出している。それはイタリアの名監督ヴィンセントの映画『山猫(Gattopardo)』の中の言葉だ—「全てが変わらず今のままであるためには、全てが変わらなければならない(Se vogliamo che tutto rimanga come è, bisogna che tutto cambi)」。元来、我々は創意工夫を得意とする国民である事を忘れてはならない。筆者は友人達に対し、江戸末期、困窮する農村を巧みな計画で救った二宮尊徳先生の努力を語り、また相田みつお先生の言葉「道はじぶんでつくる / 道は自分でひらく / 人のつくったものは自分の道にはならない」を伝えている。

“偶発的戦争”とは或る意味で意図せざる、予期せざる、準備せざる戦争だ。防衛警戒システムの誤作動や戦術的誤断の結果生じるかもしれない。そして誤解や敵側の誤断に対する推測、或いは自動的・半自動的な反応・意思決定が原因で、意図せざる形の核兵器の使用という事故が起こるかもしれない。その中には、飛行士或いは爆撃機やミサイル基地の指揮官が起こした無許可の挑発的行動が含まれるのだ。(トーマス・シェリング)

“Accidental war” refers to a war that, in some sense, neither side intended, expected, or deliberately prepared for. It includes war that that might result from errors in warning systems or misinterpretations of tactical evidence. It includes the notion that a literal accident, such as the inadvertent detonation of a nuclear weapon, might precipitate war through misinterpretation, through expectation of the enemy's misinterpretation or through some sequence of automatic or semiautomatic responses and decisions. It includes the possibility of unauthorized provocative action by a pilot or bomber or missile commander. [Thomas C. Shelling]

2. 情報概観 紙面の制約上、原則、参考になると筆者が判断した最新情報のみを掲載し解説や関連資料は一切省略。

マクロ経済: Macroeconomics—Books, Papers, and Articles

Setser, Brad, 2024, «Puissance et interdépendance financière», Notes de l'Ifri, Paris: Institut français des relations internationales (Ifri), May.
South Korean Government, Ministry of Economy and Finance (MOEF) (기획재정부/企劃財政部), 2024, “「제 26 차 아세안+3 재무장관 및 중앙은행총재 회의」 결과 [Results: The 26th ASEAN+3 Finance Ministers' and Central Bank Governors' Meeting],” Sejong, May 2.

マクロ経済: Macroeconomics—Conferences, Workshops and Seminars

May 8: (Brussels) Bruegel: “Ways to Revive Global Growth.”

資源・エネルギー、環境: Resources, Energy, and Environment—Books, Papers, and Articles

McKinsey & Company, 2024, “2023 ESG Report: Accelerating Sustainable and Inclusive Growth for All,” May.
Wall Street Journal (Editorial), 2024, “Biden Starts a Green Trade War,” May 14.
Washington Post (Ellen Nakashima *et al.*), 2024, “U.S. Officials Wary of Chinese Plans for Floating Nuclear Plants,” May 2.

資源・エネルギー、環境: Resources, Energy, and Environment—Conferences, Workshops and Seminars

May 22: (an online event, London) Chatham House: “Countering the COP Out: Continuing the Just Green Transition Conversation after COP28.”

外交・安全保障: Diplomacy and National Security—Books, Papers, and Articles

Australian Broadcasting Corporation (ABC) (Stephen Dziedzic), 2024, “China Changes Story on Military Confrontation, Accuses Australia of Spying,” May 8.
Bloomberg (Ott Tammik), 2024, “Estonia Turns to EU and NATO over Suspicions of Russian GPS Jamming,” April 30.
Bloomberg (Justin Sink and Isabel Reynolds), 2024, “Biden Calls Ally Japan ‘Xenophobic’ along with China, Russia,” May 2.
Bo, Zhou (周波), 2024, “America, China, and the Trap of Fatalism (美国、中国及宿命论陷阱),” *Foreign Affairs*, May 13.
Cable News Network (CNN) (Arlette Saenz and Colin McCullough), 2024, “Biden Calls US Ally Japan ‘Xenophobic’ along with India, Russia and China,” May 2.
Die Zeit, 2024, „Regierung: Russland für Cyber-Angriff auf SPD verantwortlich“, May 3.
Die Zeit, 2024, „Ursula von der Leyen warnt auf CDU-Parteitag vor AfD“, May 8.
Eaglen, Mackenzie, 2024, “Keeping Up with the Pacing Threat: Unveiling the True Size of Beijing’s Military Spending,” Washington, D.C.: American Enterprise Institute (AEI), April.
Economist, 2024, “Spies, Trade and Tech: China’s Relationship with Britain,” May 16.
Economy, Elizabeth, 2024, “China’s Alternative Order,” *Foreign Affairs*, Vol. 103, No. 3 (May/June), pp. 8-24.
Financial Times (Andy Bounds and Daria Mosolova), 2024, “EU Fighting to Counter China’s Influence in Global South, Says Top Official,” May 12.
Financial Times (Demetri Sevastopulo), 2024, “US Defence Chief Lloyd Austin to Meet Chinese Counterpart This Month,” May 17.
Financial Times (Ryan McMorow), 2024, “China’s Latest Answer to OpenAI Is ‘Chat Xi PT,’” May 22.
Frankfurter Allgemeine Zeitung (Jochen Stahnke), 2024, „China beginnt mit Umzingelungsübungen um Taiwan“, May 23.
Gazeta.ru (Газета.Ру) (Timofey Oblomov (Тимофей Обломов)), 2024, «Медведев назвал цель ядерных учений России [Medvedev explains the purpose of Russia's nuclear exercises]», May 10.
Hahn, Steven, 2024, *Illiberal America: A History*, New York: W.W. Norton, March.
IEEE Spectrum (Jasper Baur), 2024, “Ukraine Is Riddled with Land Mines. Drones and AI Can Help,” April 26.
ISEAS Yusof Institute, 2024, “The State of Southeast Asia 2024 Survey Report,” Singapore, April.
Julienne, Marc, 2024, «L’abandon des illusions et le retour à la Realpolitik», *Lettre du Centre Asie*, N° 110 («Macron’s China Policy: Dropping Illusions and Bringing Back Realpolitik»), Paris: l’Institut français des relations internationales (Ifri), May 14.
Kagan, Robert, 2024, *Rebellion: How Antiliberalism Is Tearing America Apart—Again*, New York: Alfred A. Knopf, May.
Kristof, Nicholas, 2024, “From the Embers of an Old Genocide, a New One May Be Emerging,” *New York Times*, May 15.
Mead, Walter Russell, 2024, “The Middle East Is a Trap for Joe Biden,” *Wall Street Journal*, April 29.
Mead, Walter Russell, 2024, “America Hits the Global Snooze Button,” *Wall Street Journal*, May 20.
Medeiros, Evan S., 2024, “The Delusion of Peak China,” *Foreign Affairs*, Vol. 103, No. 3 (May/June), pp. 40-49.
Mitteldeutscher Rundfunk (MDR), 2024, „Polizisten sollen Informationen an Neonazis weitergereicht haben - Staatsanwaltschaft ermittelt“, May 8.
NATO Review (Arsalan Bilal), 2024, “Russia’s Hybrid War against the West,” Brussels: North Atlantic Treaty Organization (NATO), April 26.
Naval News (Jeoffrey Maitem), 2024, “Philippines and Partners Conduct Successful SINKEX in South China Sea,” May 9.
Navy Times (Geoff Ziezulewicz), 2024, “U.S. Indo-Pacific Command Has a New Leader,” May 7.
New York Times (Raja Abdulrahim *et al.*), 2024, “As Israel Steps Up Attacks, 300,000 Gazans Are on the Move,” May 11.
Paul, Christopher *et al.*, 2024, “Organizing for Information Warfare at the Geographic Combatant Commands,” Santa Monica, CA: RAND Corporation, May.
Politico.com, 2024, “Israeli Ambassador Shreds Copy of UN Charter to Protest Palestine Vote,” May 10.
Pottinger, Matt and Mike Gallagher, 2024, “No Substitute for Victory,” *Foreign Affairs*, Vol. 103, No. 3 (May/June), pp. 25-39.
Reuters (Michelle Nichols), 2024, “North Korea Laundered \$147.5 Mln in Stolen Crypto in March, Say UN Experts,” May 15.
Rivera, Juan-Pablo *et al.*, 2024, “Escalation Risks from LLMs in Military and Diplomatic Contexts,” Policy Brief, Stanford: Stanford Human-Centered Artificial Intelligence (HAI), May.
Schäuble, Wolfgang, 2024, *Erinnerungen: Mein Leben in der Politik*, Stuttgart: Klett-Cotta Verlag, April.
Schmid, Jon *et al.*, 2024, “Net Technical Assessment: A Methodology for Assessing Military Technology Competition,” Santa Monica, CA: RAND Corporation, May.
Schmidt, Eric, 2024, “Why America Needs an Apollo Program for the Age of AI,” *MIT Technology Review*, May 13.
Staniland, Paul, 2024, “The Myth of the Asian Swing State,” *Foreign Affairs*, May 2.

世の中は / 捨足代木(すてあじろぎ)の / 丈くらべ
それこれともに / 長し短し。(二宮尊徳)

Things in this world / Are like wooden piles for fishing nets, / Comparing their lengths, / Some are long, others short.

(NINOMIYA Sontoku, a Japanese agrarian reformer and economic thinker)

- Star and Stripes (Alex Wilson), 2024, "China's Newest Carrier Likely Several Years Away from Regular Deployments, Experts Say," May 2.
Sūn, Chénghào (孙成昊), 2024, "'Erguī Wàijiāo' Réng Yǒu Jùdà Qiánlǐ Kě Wǎ [Track II diplomacy] still has huge potential to be tapped/'二轨外交' 仍有巨大潜力可挖," *Huánqiú Shíbào/Huanqiu Shibao* (Global Times/«环球时报»), May 16.
United States Government, Department of Defense (DoD), Defense Advanced Research Projects Agency (DARPA), 2024, "Manta Ray UUV Prototype Completes In-Water Testing," Arlington, VA, May 1.
Voo, Julia, 2024, "Contested Connectivity: Cyber Threats in the Asia-Pacific," London: International Institute for Security Studies (IISS), May 15.
Wall Street Journal (Ian Talley and Alan Cullison), 2024, "U.S. Takes Aim at Chinese Banks Aiding Russia War Effort [美国起草针对援俄中资银行的制裁措施]," April 23.
Wall Street Journal (Heather Somerville), 2024, "As Silicon Valley Pivots to Patriotic Capital, China Ties Linger [硅谷兴起爱国风潮, 对华投资关系发生动摇]," May 12.
Wall Street Journal (Dustin Volz et al.), 2024, "U.S. Fears Undersea Cables Are Vulnerable to Espionage from Chinese Repair Ships [美国担心海底电缆易受中国维修船的间谍活动冲击]," May 19.
Washington Post (Ishaan Tharoor), 2024, "In a 'Meat Grinder' of a War, Russian and Ukrainian Casualties Rise," April 30.
Washington Post (Josh Dawsey and Maxine Joselow), 2024, "What Trump Promised Oil CEOs as He Asked Them to Steer \$1 Billion to His Campaign," May 9.
Xi, Jinping (习近平), 2024, «Je viens en France avec trois messages de la Chine», *Le Figaro*, May 1.

外交・安全保障: Diplomacy and National Security—Conferences, Workshops and Seminars

- May 1: (Washington, D.C.) The Hill and Valley Forum on AI Security: "The Roadmap to AGI and Implementations on the Global Balance of Power."
May 2: (Washington, D.C.) Congress, Senate Committee on Armed Services: Hearing on "Worldwide Threats."
May 23: (Washington, D.C.) Congress, U.S.-China Economic and Security Review Commission (USCC): Hearing on "Key Economic Strategies for Leveling the U.S.-China Playing Field: Trade, Investment, and Technology."
May 31~Jun 2: (Singapore) International Institute for Strategic Studies (Singapore) (IISS): "Shangri-La Dialogue."

その他—Information in Other Fields

- Alperovitch, Dmitri, 2024, *World on the Brink: How America Can Beat China in the Race for the Twenty-First Century*, New York: PublicAffairs, April.
Alperovitch, Dmitri, 2024, "How the Right U.S. Chip Strategy Can Keep Taiwan Free," *Washington Post*, April 29.
Bloomberg (Kate O'Keefe), 2024, "Huawei Secretly Backs US Research, Awarding Millions in Prizes," May 3.
Bloomberg (Eric Martin), 2024, "US Cites Threat of Chinese EVs Made in Mexico as Trade Concern," May 15.
British Chamber of Commerce in China (中国英国商会), 2024, "British Business in China: Position Paper," Beijing, May.
European Union Chamber of Commerce in China (中国欧盟商会), 2024, "Business Confidence Survey 2024," Beijing, May.
Financial Times (Raphael Minder), 2024, "China 'Dwarfs' US Investments in EU Neighbourhood Countries," May 15.
Howell, Sam, 2024, "The Quest for Qubits: Assessing U.S.-China Competition in Quantum Computing," Washington, D.C.: Center for a New American Security (CNAS), May.
Mazzucato, Mariana and Sarah Doyle, 2024, "Biden's Incomplete Industrial Policy," *Foreign Affairs*, May 6.
New York Times (Kevin Roose), 2024, "A.I.'s 'Her' Era Has Arrived," May 14.
Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), 2024, *OECD Digital Economy Outlook 2024, Volume 1: Embracing the Technology Frontier*, Paris, May.
Reuters (Akash Sriram), 2024, "Tesla Could Start Selling Optimus Robots by the End of Next Year, Musk Says," April 24.
Versity (Francesca Morgan), 2024, "Foreign States Could Be Stealing Cambridge Research, Warns MI5," April 28.
Wall Street Journal (Selina Cheng and Raffaele Huang), 2024, "Why Musk Now Needs China More Than It Needs Him [为何说马斯克现在需要中国, 胜过中国需要他?]," April 30.
Wall Street Journal (Miho Inada), 2024, "The Exodus of China's Wealthy to Japan [中国富人扎堆移居日本, 并大举购置房产]," May 2.
Wall Street Journal (Jackie Snow), 2024, "Why You Need to Tell an AI Chatbot It Has to Do Better," May 8.
Wall Street Journal (Yoko Kubota and Sha Hua), 2024, "With America Off-Limits, China EV Makers Aim to Conquer Rest of World [美国市场难进, 中国电动车企寄望征服世界其他市场]," May 15.
Wall Street Journal (Raffaele Huang and Yoko Kubota), 2024, Microsoft Asks Hundreds of China-Based AI Staff to Consider Relocating amid U.S.-China Tensions [微软向数百名驻中国员工提议迁至国外工作]," May 16.
Wall Street Journal (Jon Emont), 2024, "China Is Winning the Minerals War [中国在全球矿产争夺战中占据上风]," May 21.
World Intellectual Property Organization (WIPO), 2024, "World Intellectual Property Report 2024: Making Innovation Policy Work for Development," Geneva, May.
Zhōngguó Xīnwén Wǎng/Zhongguo Xinwen Wang (chinanews.com/«中国新闻网»), 2024, "Wàijiāobù: Dui Měiguó Jūngōng Qīyè jí Gāojiú Guǎnlǐ Rényuán Cǎiqǔ Fǎnzhi Cuòshī [Ministry of Foreign Affairs: Countermeasure against US defense-related companies and senior executives, /外交部: 对美国军工企业及高级管理人员采取反制措施]," May 22.
Event: May 6~8: (Basel) Bank for International Settlements (BIS): "BIS Innovation Summit 2024: Navigating Rapid Innovation."
Event: May 13: (Brussels) Bruegel: "China's Global Trade Influence: Where Do We Stand?"
Event: May 23: (a hybrid event, London) Chatham House: "Responding to Malicious Cyber Operations: State Countermeasures."

3. 編集後記

習近平主席が仏 *Le Figaro* 紙上に載せた寄稿文に関してフランスの友人達と議論した(上記2を参照)。

主席は、70周年を迎えた周恩来総理提唱の平和5原則に触れた(領土保全及び主権の相互不干渉・相互不侵略・内政不干渉・平等互惠・平和の共存)。そして友人達と、この5原則も周総理の時代と習主席時代とは「解釈」が随分変わってきているのでは、と語り合っている。

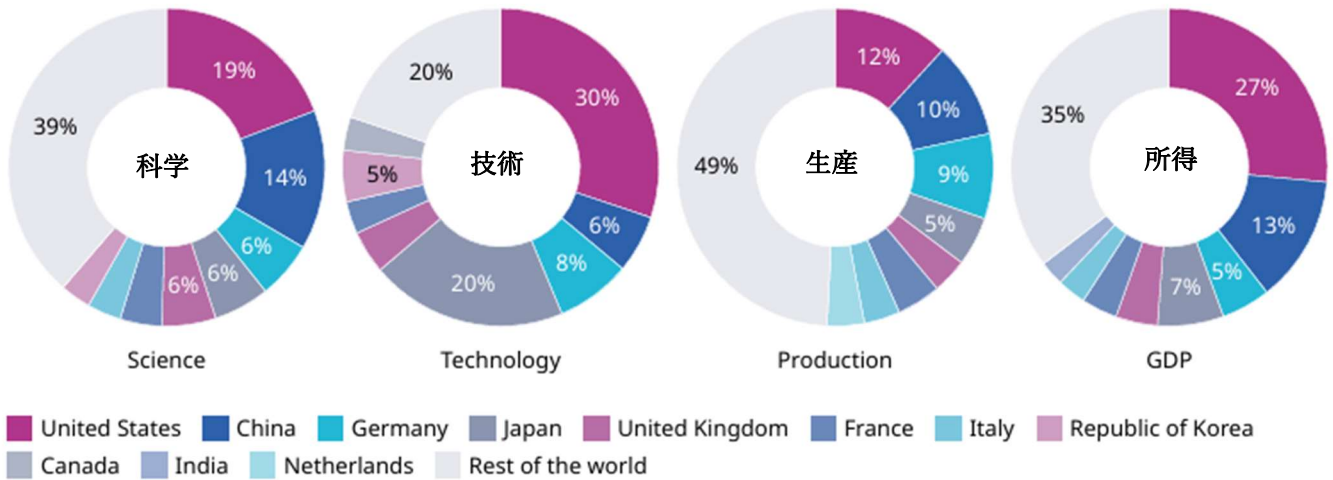
また寄稿文には2つの有名な言葉が言及されている。一つは孔子先生による「中庸」の中の言葉で、もう一つはロマン・ロラン先生の「La liberté de l'esprit」の中の言葉。流石は「春秋の筆法(春秋筆法)」を用い、如何なる状況においても相手を言いくるめる事に長けている中国。中国国内だけでなく国外の知識人の琴線に触れるような言葉を選び出してくる。我々には真似の出来ない propaganda だ、と語り合っている。

そして「美文・名文を尊ぶ中国。悔しいけれど心憎い程の引用だ。その事を肝に銘じなくては」と話している。以上

(編集責任者) 栗原 潤	Jun KURIHARA
キャンングローバル戦略研究所 研究主幹	Research Director, Canon Institute for Global Studies
〒100-6511 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング 11階 Tel: +81-(0)3-6213-0550 (代)	Kurihara.Jun@gmail.com
過去の <i>Cambridge Gazette</i> はネット上で見ることが出来、ダウンロードも出来ます。ネット上でキャンングローバル戦略研究所のウェブサイトに行き、そこで栗原のコラム・論文の欄をクリックして頂ければ、バックナンバー全てを見ることが出来ます。	

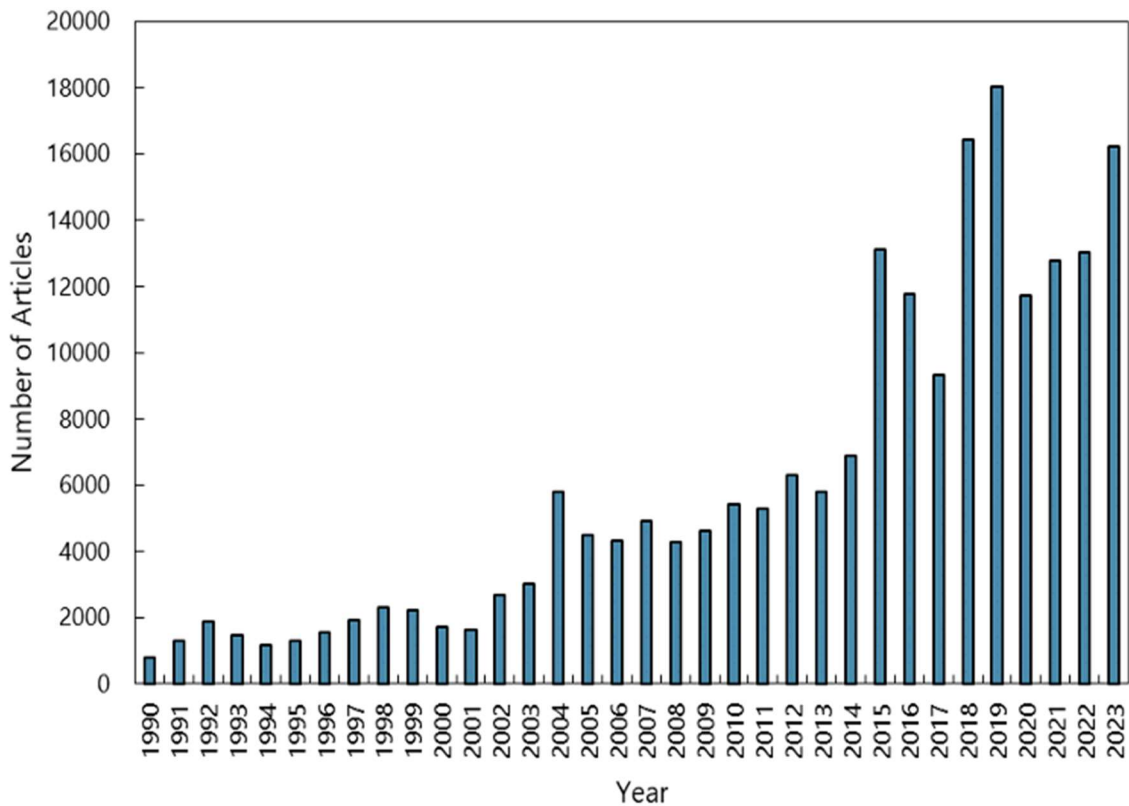
Appendix/付属資料

Figure 1 Share of Innovation Outputs vs GDP Share (2017-2020)
 図1 主要国の対世界シェア：イノベーションによる成果とGDP (2017-2020)



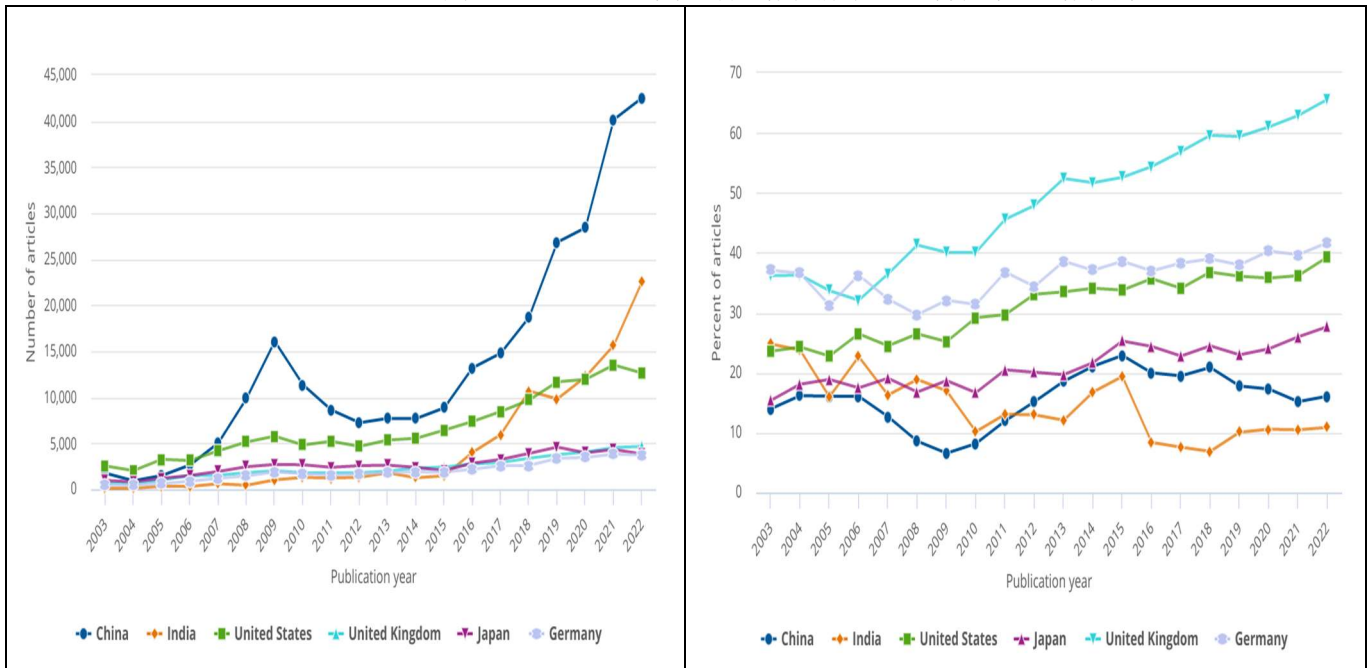
Source: World Intellectual Property Organization (WIPO), "World Intellectual Property Report 2024: Making Innovation Policy Work for Development," Geneva, May 2024, p. 35.

Figure 2 Mentions of Industrial Policy in the Major Business Press
 図2 主要ビジネス・メディアにおける産業政策に言及した記事の数



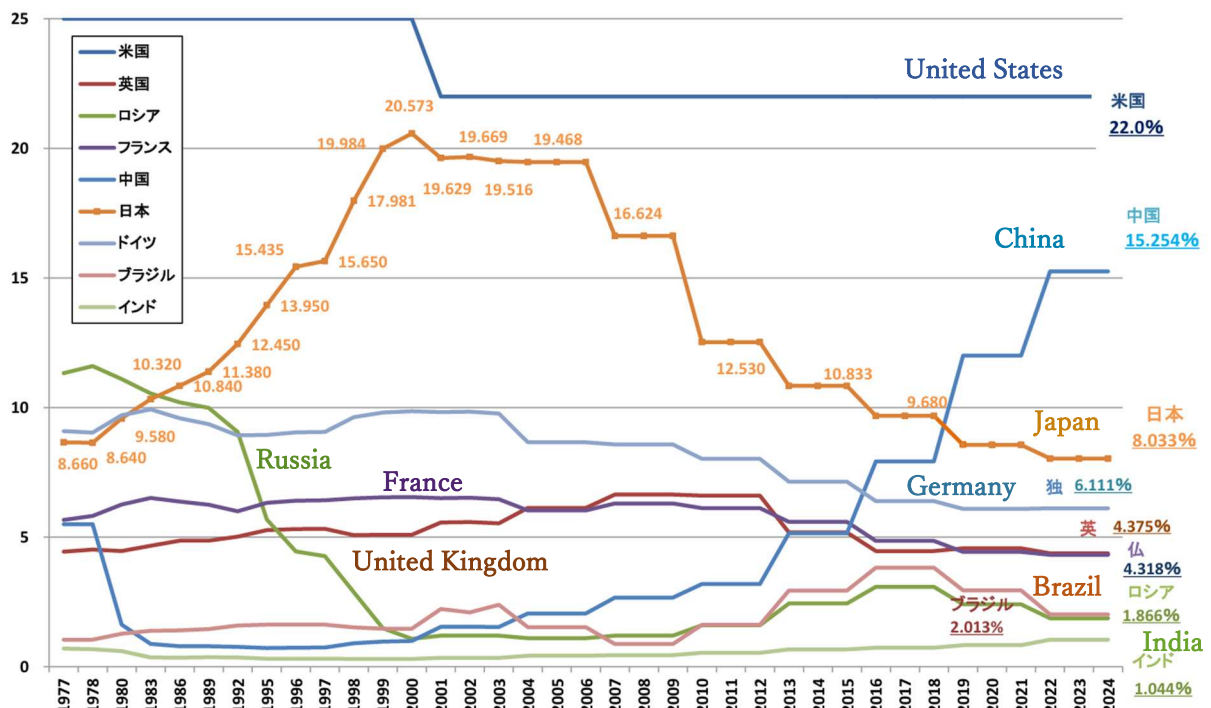
Source: Simon Evenett *et al.*, "The Return of Industrial Policy in Data," Working Paper 24/1, Washington, D.C.: International Monetary Fund (IMF), January 2024, p. 5.

Figure 3 AI Articles by Selected Country and International Collaboration on the Articles
 図3 主要国別にみた AI 関連研究論文数及び国際共著 AI 論文率



Source: National Science Foundation (NSF), "International Collaboration in Selected Critical and Emerging Fields: Covid-19 and Artificial Intelligence," Alexandria, VA, April 2024, pp. 2, 4.

Figure 4 UN Regular Budget Scale of Assessment of Major Contributors (%)
 図4 主要国の国連分担率の推移



Source: Government of Japan, Ministry of Foreign Affairs (MOFA), <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100651131.pdf>.